



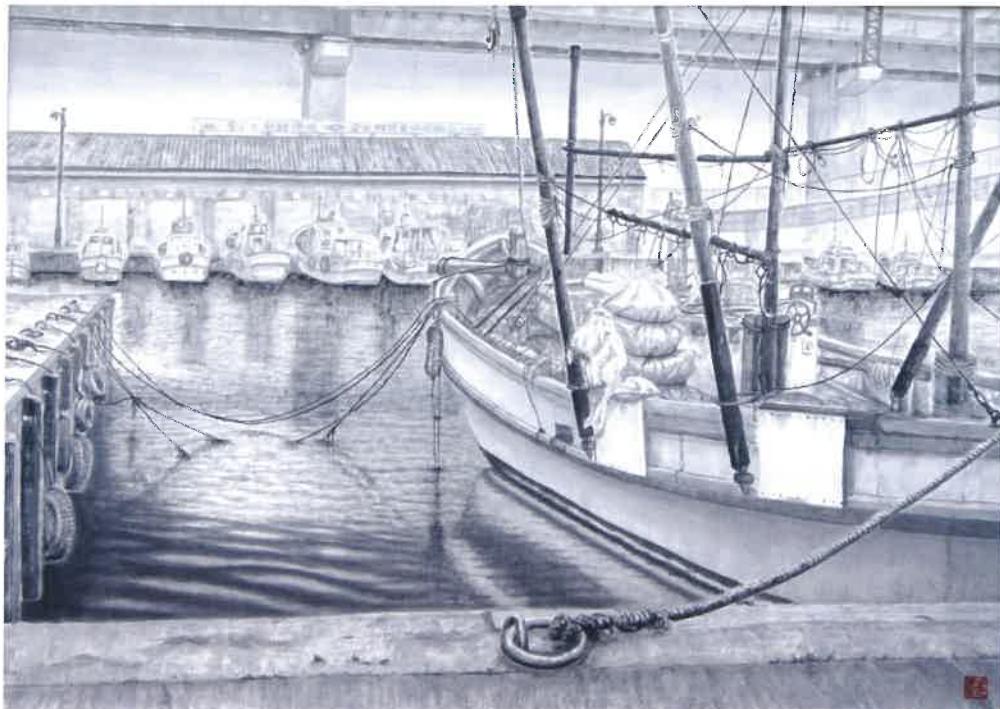
大阪市立大学
工学部同窓会

大阪市立大学工学部同窓会報 第31号

2015年（平成27年）12月25日発行

同窓会だより

大阪市住吉区杉本 3-3-138
TEL 06 (6607) 8373
FAX 06 (6605) 2769
発行人 西口 克彦



建部 渉 作

《 目 次 》

西口会長・日野名誉会長の挨拶	2	ご寄付のお礼とお願い	13
学科の近況・会員短信（機械工学科）	3	2015年工学部卒業生名簿	14
（電子・物理工学科）	5	工学研究科修了生名簿	15
（電気情報工学科）	7	工学部入学生	16
（化学バイオ工学科）	8	工学研究科入学生・第27回評議員会案内	17
（建築学科）	10	工学部同窓会事務局年報	18
（都市学科）	10	工学研究科・工学部研究分野・編集後記	19
学生向け工場見学会	12	平成28年“工学部同窓会の集い”の案内	20

ご挨拶

工学部同窓会会长 西口 克彦



平成27年12月“工学部同窓会だより”の発行に当たりご挨拶を申し上げます。

同窓会員の皆様、日頃から同窓会活動にご理解と御協力を頂き感謝申し上げます。

昨年5月の大阪府市統合の住民投票は僅かの差で否決されました。そのため、

府立大学と市立大学の統合計画は進んでおりません。しかしながら、秋の府知事、市長の同日選挙に於いては、維新の大勝に終わりました。今後の政治の行方は不透明ですが、日本の大学の状況は、少子化で新生児の数が100万人まで減少し、大学への進学率は50%を超えてきました。そのような環境下で大阪府の公立大学を2校維持するのが難しくなるのは目に見えています。そこで、府立大学と市立大学の協議は進んでおり、何らかの形の統合はいずれ実現されるものと思われます。

大阪市立大学の同窓会は一元化され4年目になります。まだまだ、文科系同窓会である有恒会の事務局に運営を依存しておりますが、全国の地方支部は順次全学同窓会支部に名称を変更しております。工学部同窓会の皆さんも、各支部への積極的な参加とご協力をお願いします。

一方、我々の同窓会活動は、同窓会設立50周年記念の奨学金制度も動き出し、徐々に成果が見えてきております。また、ホームカミングデーでの若手研究者の研究講演会、在校生対象の工場見学会など少しずつ充実してきております。今年度から同窓会のホームページの改良も手掛け、皆さんにより見やすくするよう努めてまいります。ご利用をお願いします。

さて、私は、昨年度の評議委員会にて会長に選任されました。これまでの理事としての同窓会活動とは異なり、主体的に本同窓会の運営に責任を果たす立場になり、責任の重さを痛感しております。今後とも、同窓会活動にご協力とご支援を賜りますよう重ねてお願い申し上げます。

最後になりましたが、杉本キャンパスに同窓生が何時でも集えるスペースが昨年の7月に田中記念館に完成しました。杉本町にお越しの際は、田中記念館3階の全学同窓会または工学部内の工学部同窓会室に足をお運び頂きますよう、お願ひ申しあげます。寒さ厳しき折ご自愛ください。

(応化・昭和43年卒)

表紙絵作者の略歴

1937年：岡山県高梁市生まれ

1956年：大阪市立大学理工学部入学

1962年：大阪市立大学工学研究科電気工学専攻修了

2001年：大阪市立大学工学部教授を定年退職

題名：「Fishing boat's painters(筋い綱)」2015 水墨画 P30
2015年泉佐野市民展賛助作品

今年の春、スケッチに出かけた泉佐野漁港の風景、岸壁と漁船を繋ぐ筋い綱に目が留まり描いたものです。

工学部・工学研究科の近況

日野 泰雄



毎年のように発生する自然災害への備え、高齢化に伴う福祉的ニーズ、人口減少に伴う移動や都市の再生、社会資本としての公共施設の老朽化への対応など、様々な社会の要請に応えるべく、同窓生各位には、日々ご活躍のことと思います。

さて、研究科長・学部長として二期目の最終年度を迎え、佐藤嘉洋副研究科長と長崎健教育研究評議員とで研究科・学部の運営に当たっています。

既に任期も3年7ヶ月となり、本来ですと任期中の総括が必要かもしれません、それはまたの機会に譲り、近況を報告させていただきます。

まずは、教員の異動です。本年3月に、小槻 勉教授（化学バイオ）と細田 誠教授（電子・物理）が定年退職され、松村政秀准教授（都市）が京都大学へ転出されました。一方、4月には伊與田浩志教授（機械）が昇任され、山田裕介教授（化学バイオ）、梁 剣波講師（電子・物理）が着任され、10月には田窪朋仁教授（電気情報）、西岡真穂教授（都市）が昇任されました。現在、来年度末退職予定の先生方の補充人事などを進めており、平成28年4月には新たな顔ぶれが加わります。ここ数年は研究科内の世代交代の時期と言えるかもしれません。

次に、学生の皆さんの動向ですが、平成27年3月の卒業生は256名でその71%に当たる182名が前期博士課程に進学しました。大学院修了生は前期博士課程175名、後期博士課程9名（9月5名）で、後期博士課程への進学は1名でした。後期博士課程への進学者は年々減少しているため、奨励奨学金制度を設けたり、博士課程教育リーディングプログラムによる進学者を増やしたり、その対策に力を入れています。卒業生各位にも、社会人Drを目指してみてはいかがでしょうか。

一方、今年度の入学生は、学部生293名、大学院生203名（前期博士課程194名、後期博士課程9名（うち6名は10月入学）でした。オープンキャンパスへの参加者の増加（4,245名で昨年の108%）を見る限り、今後多くの学生さんが本学を志望してくれるものと期待される一方、それに応える責任の重さを感じているところです。

同窓会による学部生奨学金制度については、今年度は10名の応募があり、審査の結果2名に貸与されました。ようやく制度の周知も進み、今後も本学工学部を目指す学生さんへの心強い味方となりそうです。同窓会には感謝申し上げます。

研究科としては、多様な分野での役割を果たすために様々な活動を行っています。昨年締結しました大阪府都市整備部との包括協定に基づいて、今年9月には双方合せて75名が参加して座談会（意見交換会）を開催しました。今後、教員・学生による実務への貢献と、現場に即した研究推進の好循環が期待されます。また、セミナーの開催など医工連携の取り組みも引き続き進めています。一方、教員の研究成果を同窓会各位にも還元すべく、同窓会では昨年のホームカミングデーから若手教授の講演会を開催していただいている。加えて、昨年度末からは、理事会の方々との意見交換会も実

施するなど、同窓会とのより一層の連携を進めていますので、皆さんにも是非積極的に関与いただければ幸いです。

大学は今も変革の波の中ありますが、本学の特徴と伝統を活かしつつ、新たな方向性についての検討を続けていますので、皆様には益々のご支援をお願い致します。末筆になりましたが、同窓生各位の益々のご活躍をお祈り致します。

(工学研究科長・工学部長)

機械工学科の近況

兼子 佳久



卒業生の皆様におかれましては益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。

学科再編により誕生した新しい機械工学科は7年目を迎え、新機械工学科の1期生として入学した学生の一部は今年3月に大学院を修了し、機械物理専攻として41人の大学院修了者を社会に送り出すことができました。また、4回生は41人が本学大学院に進学し、10人が就職いたしました。

今年4月には、教員の昇任と新たな研究分野の創設がございました。まず、伊興田浩志先生が教授に昇進されました。それにともなって従来の熱工学分野が発展的に分かれ、環境熱工学分野（西村教授）と熱プロセス工学分野（伊興田教授）が新たに設置されました。さらに、ロボット工学分野（高田教授）と生体計測工学分野（佐伯准教授）が新たに設けられ、より幅広い専門分野を対象とする学科となりました。

また工学研究科の新しい取り組みとして、昨年度より大阪府立大学と共同で博士課程教育リーディングプログラムが開始されました。機械物理系専攻もこれに参加しております。このプログラムは大学院5年一貫教育を特長としており、企業で活躍できるグローバル博士リーダーの育成を目的しております。機械工学科を卒業し大学院に進学した院生から1名が今年4月よりこのプログラムの履修生となりました。

末筆ながら、今後の皆様のご活躍を祈念するとともに、引き続き機械工学科へのご支援・ご鞭撻をよろしくお願ひ申し上げます。

(工学研究科教授・機械工学科主任教授)

同窓会：23機会 近況報告

村田 昭



私は昭和23年都島工業専門学校機械工学科を卒業(年齢86～88歳)しました。同期の同窓会を「23機会」と名付けて、毎年続けて開催しております。今年も先日、ホテルグランヴィア大阪で開くことができました。その時のメンバーの近況をまとめました。

○伊藤俊夫：今回、会場が閉館したにも拘わらず新会場で継続開催出来、ほっとしました。感謝。小生は、元気にラジオ体操、歩こう会（一日90分）を続けていましたが、最近家内の体調不良のため介護に専心しています。再会を楽し

みにしています。

○伊藤和実：この歳になって同窓会を開いて頂けるなんて、米寿を迎える歳になって、幸せに思います。しかし、体はボロボロ。病院に行くのにタクシーを使う次第です。ドクター3人にかかりています。人工透析は何とか免れたが歩行が苦痛、静かに余生をおくっています。

○大河原保：春頃より少々体調をくずし体重減少するも年齢相応の元気度でビデオカメラを時々廻しています。弥生会館閉館に伴い新会場交渉他色々お世話になります。当日を楽しみにしています。

○佐古田敦己：体力も年々衰えてきましたが、妻と一緒に約10アールの畠で野菜作りなどやっています。福知山市内に住む娘が週2日やっています。変わった野菜花を作っては、今は野菜が高いので助かるといって沢山持つて帰ります。先月近くのブルーベリー農園で収穫祭があり、オカリナを吹かせてもらいました。青空の下でのオカリナの音色はよかったです。諸兄のご健康を大江山の麓から祈念しています。

○渋谷哲男：OB会のお世話を頂き感謝すると共にお礼申し上げます。お蔭さまにて、医者通いをしていながらもまあまあ元気に過ごしています。何かと雑用に追われていますが、詰将棋・数独で暇を潰しています。お会い出来るのを楽しみにしています。

幹事より追記…開催前日に電話あり、奥さんの手術日が急に決まり、欠席でした。皆さんに宜しくとのことでした。

○堂岡 肇：体調の方は、特に変わったことがありませんが、周囲のすすめもあり、マイカーの検査切れを機会に、11月に車を処分することにしました。残念なことですが、歳には勝てずさびしい思いです。

○西村貞雄：昨年、妻を亡くしました。長男がおり、助かっています。皆に会える日を楽しみに！

○平野輝夫：（電話で返事あり）・1. 体調悪い 2. 寝ている。3. 悪いが欠席します。

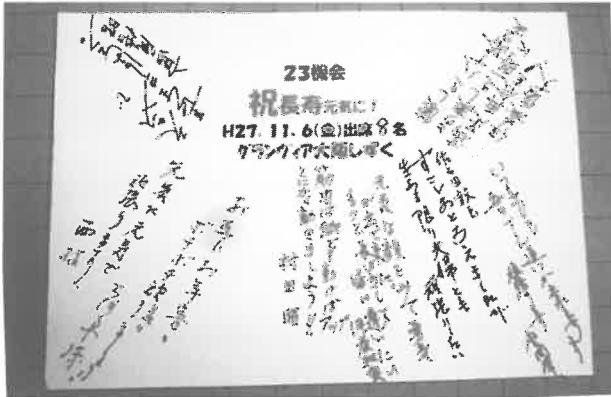
○丸山公一：一年経つのがとても早く感じます。最近の体調は良い方だと思いますが、相変わらず足の出の悪さは良くなりません。デイサービスに水曜と土曜の2回 要介護1の資格で参加しています。陶芸や水彩画の時間もあり楽しんでいます。自転車漕ぎ、足の開閉、平行棒の歩行、体を捩じる運動が合計20分ありますので結構な事です。朝一番のストレッチが8分、昼食の食前には口周囲の体操、帰宅前のストレッチが夫々10分位あります。木曜には水彩画教室に午前、午後はリハビリのための病院で整体と歩行訓練を受けています。以上ドッコイと生きています。家内も83歳となり老老介護でどうなるのか心配ですが頑張るしかないですね。大阪へは同行してくれる者の予定がとれず欠席いたします。23機会の皆様のご健勝を祈ります。

○宮尾信昭：幹事さん御苦労さまです。感謝しております。私「前立腺がん」で10年近く通院しております。いまのところまだ大丈夫のようです。相変わらず溶接材料の研究をしています。これしか能がありません。よろしく。

○村田 昭：体調は可もなし、不可もなし。5月にはハイイ、ホノルルへ。次男の会社の親招待の行事あり行ってきました。又、10月には長男夫妻が台湾 台北市の故宮博物

院見学に連れて行ってくれました。驚きの連続でした。キツイ旅でしたが何とか無事に終えることが出来ました。今年も皆様にお会い出来るのを楽しみにしています。

○山中 博：（電話で返事あり）体調不良。欠席します。悪しからず。



近況報告（四四会50周年・北陸の旅）

樹井 利英



「四四会」は、機械科昭和44年卒の同窓会です。毎年正月に新年会を、また節目には親睦旅行会を実施しています。今回は、入学時の初めての出会いから50周年を記念し10月7日（水）から9日（金）まで、奥方7人を含む総勢23人で2泊3日の北陸の旅を楽しみました。

私が代表幹事を仰せつかり、北山君、宮本君、高木君、吉村君、向井君の各幹事が役割分担しサポートしてくれました。

初日7日午後、電車組と「JR羽咋駅」で合流した車、飛行機組を「のと里山空港」でピックアップした車、また宿へ直行した車など計7台が夕方「輪島 民宿 満月」に集結しました。

夜は輪島塗の立派な食器に盛られた海の幸を味わいながら総勢23人の大宴会。近況報告のあと、「ご当地クイズ」などを楽しみました。2次会も夜遅くまで盛り上がりました。

翌8日は、輪島の朝市を散策した後、車に分乗し、それぞれが別行動で好きなところ（白米千枚田、すず塙田村、総持寺、外浦ドライブなど）を観光し、夕方、「栗津温泉 のとや」に全員再合流しました。夜は、またまた大宴会。関君の「かっぽれ」から始まり馬場君の「旅行記」、宮本・吉田夫人の「オカリナ・コカリナ演奏」私の女房の「歌」北山君の「落語」など盛りだくさんでした。2次会ではビンゴを行いました。また2年後に旅行しようということになり、北山君が次回の幹事長を引き受けってくれました。

最終9日の朝、ホテルのロビーで解散宣言、玄関前で記念撮影し、再会を誓って別れました。帰る方向が同じ人の車に分乗し、それぞれ那谷寺、日本自動車博物館や九谷焼美術館、恐竜博物館などを観光しながら帰路に着きました。

気の抜けない同期の仲間との本当に楽しい3日間でした。
(機械・昭和44年卒)



輪島 民宿 満月にて

近況報告

大皿 達郎



このたび同窓会報への寄稿の機会を頂きまして久しぶりに当時のことを振り返りました。私は平成17年から19年に大学院に在籍し、そのころ安価になりましたWEBカメラと、自作ソフトウェアとラジコンを使って、画像を用いた制御について研究をしておりました。当時は画像を活用した市販品などなかったように思いますですが、いまは衝突防止機能を備えた自動車が各社から販売され、本当に身近な技術となりました。つくづく技術の進歩は早いと感じています。

私は卒業後、機械メーカーに入社し、主に産業用エンジンに搭載されるコントローラのソフトウェア開発業務に従事しています。産業用エンジンは近年、電子制御の高度化が進んでおり、エンジンの頭脳にあたるコントローラが、エンジンに設置されたセンサから信号を受け、それらの情報を高速に演算し、アクチュエータを操作しています。ソフトウェア開発は、信号受信・演算・アクチュエータ操作の一連の制御設計、プログラムの製作、評価が主な業務です。ソフトウェア開発と聞くと、機械科とは関連が薄いと感じられる方も多いのではないかでしょうか？実際は、制御工学が活用できることは言うまでもなく、機械の特性や物理現象の理解を深めることが、理想的なエンジン動作の実現や開発期間の短縮につながるため、機械科で学んだ基礎知識が活かされる機会も多いです。いま思えば在学時に研究を通して制御とソフトウェアを学ぶことができたことや、在籍した研究室にてエンジン関連の研究を間近にできていたことは、非常に恵まれた環境であったと感謝しております。

最後になりましたが、お世話になった先生方、卒業生の皆様の益々のご発展を心よりお祈りいたします。

(機械・平成17年卒・同19年前期博士修了・ヤンマー(株))

近況報告

伊丹 康人



卒業生の皆様におかれましてはご活躍されていることと存じます。私は2012年まで機械工学科の材料強度工学研究室にてお世話になりました。

現在は住友ベークライトに入社し、材料および製品の研究開発に携わっています。内容としては樹脂材料の成形技術について実験や検証など、所謂「手を動かす作業」を実施しながら日々奮闘しております。弊社は樹脂材料の会社ですが所属するグループには化学系出身者だけでなく私を含めて機械系出身者も多く所属しており、樹脂に関しては先輩や上司から知識や技術を日々伝授されています。

1年程前に所属部署が異動となりましたが、そこで実感したこととしては1つの部署に留まらずに複数の部署を周ることで技術者としての「幅」を広げられるということです。部署によって業務内容および目的が違うため普段のスタンスも異なっています。私は現在、自分の業務が会社にとってどんな位置づけにあるのかを意識することを心がけています。また自分が会社そしてグループの一員であることを意識し、業務の目標達成には周りの助けが不可欠であると実感しています。複数の事案に対してグループ全員で対処する、これが現在のスタンスです。学生の頃よりもいい意味で「なりふり構わない」といったことを意識しています。

また入社4年目になると同期や知り合いが別の部署に異動するといったことも多くなり、他部署と連携した業務なども増えており、その度に良い刺激を貰っています。まだまだ経験不足であり、常に技術者としての自身の向上を図っていくために日々の業務とともに研鑽を行っていきます。

最後になりますが、在学中は先生方や同期生の皆様方には大変お世話になりました。皆様方の益々のご活躍を心よりお祈り申し上げます。

(機械・平成22年卒・同24年前期博士課程修了・住友ベークライト(株))

近況報告

石田 勝久



卒業生の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。私は2012年に機械物理系専攻（材料機能工学研究室に在籍）修了後、(株)カネカに入社し、現在までエンジニアリング関係の業務を行っております。

ユーザーインジということで、設備計画の立案、プロジェクト管理、設備設計から、自ら実験を行ってのプロセス設計、ポンプが壊れれば現場で分解しての原因調査など、様々な業務を行っております。また、弊社は扱っている製品が非常に多岐に渡っている為、その時々で求められる知識も非常に幅が広いです（反面、専門力の向上が私の今の課題です）。

弊社は化学メーカーの中でもいわゆる総合化学メーカーではなく、中間素材メーカーとしての色合いが強い会社です。いかに付加価値の高い製品を生み出すかということが重要であり、その為には従来の様に単に設備を導入するだけでは無い、「開発型エンジニアリング」というものが増え求められています。

人々、化学メーカーを志望した理由は、素材というものに興味があったことに加え、機械系職種の需要はあるものの、人数が少ない様な場所で幅広く活躍したいと思ったからです。現在は製造現場に近い領域で設備について学びながら業務を行っておりますが、知的材料工学科で学んだ材料に関する知識や興味といった部分を自分の武器にし、研究側の人間と対等に話ができるエンジニアになることが私の目標です。

最後になりますが、学生時代、先生方には多大なるご指導、ご鞭撻を頂きました。改めてお礼申し上げますと共に、皆様方のますますのご発展を心よりお祈り申し上げます。

(知材・平成22年卒・同24年前期博士課程修了・(株)カネカ)

電子・物理工学科（旧電気一部・旧応物）

電子・物理工学科の近況

金 大貴



卒業生の皆様、お元気でしょうか。まず、学生の進路状況について報告いたします。2015年3月に42名が電子・物理工学科を卒業し、そのうち5名が就職、37名が本学大学院に進学しました。また、大学院では、30名が前期博士課程（修士課程）を修了し、29名が就職、1名が後

期博士課程に進学しました。そして、4月には42名の新入生が入学できました。

教員の近況として、2015年3月に細田先生がご退職されました。細田先生は4月からは静岡大学特任教授として研究を継続されていらっしゃいます。また、本学非常勤講師として引き続き学部教育にご貢献いただいています。2015年4月からはパワーエレクトロニクス分野に梁剣波講師が着任され、教育・研究にご尽力いただいています。学科では、2014年度よりキャリア教育の一環として、本学を卒業し、各界で活躍されている若手技術者をお招きし、オムニバス形式の講義

（「電子・物理工学実務技術論」）を開講しています。学生のみなさんにとってOBの話が聞ける貴重な機会であると、とても好評です。

また、2015年11月16日には応用物理学科昭和38年卒業の13名の皆様が、本学を訪問され、学術総合情報センターと旧応用物理学科の実験室を見学されました。卒業生の皆様にお会いできるのは我々教員にとっても非常に嬉しい機会ですので、これからも皆様のご来訪をお待ちしております。最後になりましたが、卒業生の皆様のますますのご活躍を祈念いたしますとともに、引き続き本学科へのご支援とご鞭撻をお願い申し上げます。

（工学研究科教授・電子・物理工学科主任教授）

近況報告

梅谷 良彦



学校出てから40数年、我が人生もいろいろありました。

卒業間もない頃は、先輩方の同好会に参加し冬、夏は信州長野の山小屋で、春、秋は伊勢志摩の海の家で過ごしたことが思い出されます。

工学部卒業後は6年ほど電子部品製造に携わりましたが、その後は父、兄の後を引き継ぎ町の印刷業に励んできました。学生の時に学んだ具体的な内容は、忘れてしましましたが家業に役立つプログラムの作成を通じて、学生時代の記憶を思い出しています。

20年ほど前からパソコンが身近に成り、インターネット時代に入り日々のニュースはインターネットからもらっています。特に自動車の自動運転の進歩に驚かされます。

私の生存中に自動運転車にのれるかもしれません。たのしみです。

また将棋ソフトしかしここ数年でAI技術が飛躍的に進歩していると感じています。町の印刷業も時代と共に進歩し労働集約的な作業から脱皮出来るようになることを、次代を背負う若い人たちに期待したいと思っています。

どなたかおっしゃって居られましたが、「小さいことからコツコツと」をモットーにしてきましたが、これからも浮利を追わずに生きたいと思います。

（電気・昭和46年卒）

会に出て約3年

原田 和也



私は2011年3月に電気工学科を卒業、2013年3月に電気情報系専攻の前期博士課程を修了し、三井造船株式会社に入社致しました。大学・大学院に通っていた6年間は非常に充実した毎日であったため、あっという間に過ぎた印象があります。また、卒業した現在でも大阪市立大学と交流があり、昨年から当社の電気系専攻のリクルーターとして何度か大学に訪問させていただく機会もありました。

久しぶりに訪問した大学は、工学部棟と理学部棟の前の道がお洒落になっている等の新しい変化もありましたが、昔から通っていたお弁当屋や丼屋は変わらず営業されている等、変わらない風景もあり非常に懐かしくも感じました。

私は三井造船株式会社に入社後は、岡山県にある玉野事業所に2年間勤め、現在は大分県にある大分事業所に勤務しております。当社は造船会社ではありますが、総合重工メーカーとして様々な事業に取り組んでおり、私は入社してから現在、コンテナターミナルの物流システムの開発に携わっております。大学時代に学んだ電気と情報の知識を活かし、物流システムを実現するための設計・開発業務を行っておりますが、まだ自分の勉強不足を痛感する毎日を過ごしております。

私生活については、休日はゴルフや登山でアウトドアを楽しみ、大型連休時には電気工学科の同期数人で集まり、卒業後の皆の近況や大学時代の話を聞く事を毎回楽しみしております。皆の話を聞く度に、自分も仕事・私生活共にもっと頑張っていこうという励みにもなっています。

最後になりましたが、皆様のご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げます。

（電気・平成23年卒・同25年前期博士課程修了・三井造船㈱）



平成25年3月 大阪市立大学修了式

近況報告

宮崎 健一



皆様いかがお過ごしでしょうか。

私は、平成22年3月に電気情報系専攻の修士課程を修了後、大日本印刷株式会社（DNP）に入社し、生産技術の研究所に配属されました。

ご存知の通り、昨今は出版業界の売り上げが年々右肩下がりで減少し、市場を取り巻く環境は厳しくなっています。しかし、DNPは出版業界だけではなく、包装材料や住宅建材、テレビ用部材等、印刷技術を応用して様々な分野に進出しており、事業領域が非常に広いという特徴があります。

私が所属する研究所はそれら全領域の製品を人・材料・設備・方法の4つの観点から、いかに効率よく、低コストで製造するかを研究している部隊です。その中で、私が担当しているのは、フォトブックのような「一冊単位」、「短納期」、「高セキュリティ性」が要求される製造システムの開発です。学生時代の研究とは一切関係のない分野で、一から学びながらではありますが、設備設計やシステム設計など様々な

ことを学べて非常にいい経験となっています。

今後も様々なことに挑戦し、自分を成長していくべきと考えています。

最後になりましたが、皆様の益々の発展とご活躍を心よりお祈り申し上げます。

(電子・応物・平成20年卒・同22年前期博士課程修了・大日本印刷株)

近況報告

瀧田 佑馬



冬が近づき、寒さを感じる季節になりましたが、同窓生の皆様におかれましては、お元気にお過ごしのことと存じます。月日が経つのは早いもので、私が後期博士課程を修了してから2年半が過ぎました。卒業後は、宮城県仙台市にある国立研究開発法人理化学研究所にてポスドクとして研究に励んでいます。具体的には、非線形光学結晶を用いてレーザー光をテラヘルツ波に波長変換することで、高出力かつ周波数可変なテラヘルツ波光源の開発とその応用に取り組んでいます。

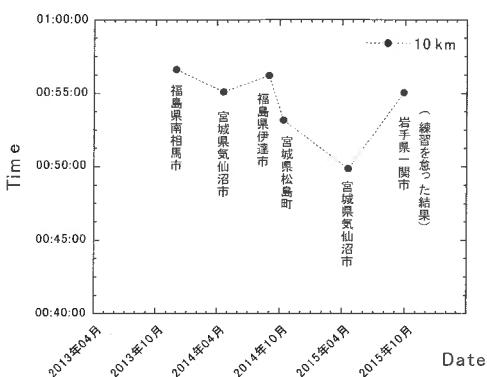
研究は体力勝負！ということで、職場の方々に誘われてマラソン（主に10km）を始めました。昔から走るのは苦手だったので、最初はお誘いを断っていたのですが、しつこく誘われたので渋々参加してみました。平日の昼休みには、練習として職場の周りの高低差の激しい山道を約5キロ走ります。

す。いざ走ってみると汗をかくことの気持ち良さに気づき始め、走り終わった後のあのなんとも言えない開放感が心地よく感じるようになりました。そのおかげか、仕事での集中力も高まり、夜もスッキリ眠れるようになりました。今ではマラソンにすっかりハマり、ウェアとシューズを揃え、休日には宮城県気仙沼市、福島県南相馬市や岩手県一関市などで開催されるマラソン大会に出掛けています。続けるにつれて、タイムも縮まりつつあります（グラフ参照）。今の目標は、10kmを45分以内に完走することです。

この調子で、研究も東北各地も駆け抜けたいと思います。

最後になりましたが、皆様の益々のご活躍を心よりお祈り申し上げます。

(応物・平成22年飛級により中途退学・同23年前期博士課程修了・同25年後期博士課程修了、国立研究開発法人理化学研究所)



電気情報工学科（旧電気一部・旧情報）

電気情報工学科の近況

阿多 信吾



卒業生の皆様には、ますます健勝のこととお慶び申し上げます。電気情報工学科は学科再編後の第1期生がこの春大学院前期博士課程を修了しました。

これを機会に、電気・情報の幅広い学問分野をより体系的に修得するため、エレクトロニクス、情報処理、情報通信の3領域を柱とした新しい教育カリキュラムを今年度より導入しました。初年次教育ではロボット演習、アプリケーション作成、電子回路シミュレーションなど、「ものづくりの楽しさ」を体得できる構成にしたほか、単位取得の条件を満たせば3年生後期から研究室に先行配属できる制度を導入するなど、学生の勉学意欲および質向上のための取り組みを進めています。

研究関連の話題も多くありました。学生や教員の受賞はもちろんのこと、薄膜電力センサや見回りシステムなど、一般メディアにも研究成果が取り上げられる機会が多くあったほか、企業との共同研究なども活発に行われております。

就職については、今年度は就職活動解禁時期が8月と従来よりも大幅に遅くなり、学生の就職活動に混乱が生じないか心配されたところでしたが、学部・大学院とも順調に推移しており、昨年度に引き続き電気、情報の両分野から多くの求人をいただき、大変ありがたく感じております。第一線で活躍中の本学の卒業生が企業説明会に来られる姿を拝すると心強い限りです。

学科スタッフの異動については、本年10月より知識情報処理工学分野の田窪准教授が教授に昇任され、徐々にですが世代交代が進んでいます。

末筆になりましたが、卒業生の皆様のますますの健勝とご活躍を心より祈念いたします。

(工学研究科教授・電気情報工学科主任教授)

社近況報告

熊野 由一



卒業生の皆様におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。私は2015年3月に工学研究科を修了し、ネットワンシステムズ株式会社に入社しました。ネットワンといえば、ネットワークインフラの設計や構築、運用を行うネットワークインテグレータとしてのイメージが強いですが、近年はネットワークだけでなく、サーバやストレージの仮想化を含めたクラウド基盤の設計、構築、運用に取り組んでいます。私は現在、クラウド基盤を支えるサーバやストレージシステムの設計、構築を行なう部署に所属しています。

今は入社して間もないこともあります、設計よりはお客様先に足を運んで構築を行うことが業務の中心となっています。実際に現場に行ってみて感じたことは担当者間のコミュニケーションが非常に重要であることです。お客様の実環境の中で

作業をするので、もし作業ミスが生じるとお客様に多大なご迷惑をかけてしまいます。作業ミスを防ぐために、作業内容を逐次報告したり、設定内容を作業者間でチェックすることを徹底して行うよう心がけています。

新社会人になると同時に生活環境が大きく変化しました。生後より25年間ずっと暮らしてきた大阪を離れ、東京で一人暮らしを始めました。今まで炊事・洗濯などの家事はすべて両親に任せっきりで、私自身は何もやってこなかったので、家事を全部自分でやるというのはどれだけ大変であるかを知りました。今まで何一つ不自由なく過ごせていたのは両親のおかげであると、強く実感しました。今まで支えてくれた両親への感謝を忘れず、これから恩返しをしていきたいと思います。

最後となりましたが、皆様の益々のご活躍を心よりお祈り申し上げます。

(電気情報・平成25年卒・同27年前期博士課程修了・ネットワンシステムズ(株))

化学バイオ工学科（旧応化・旧生応化・旧バイオ）

化学バイオ工学科の近況

小畠 誠也



卒業生の皆様には益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

学科再編で発足した化学バイオ工学科の第1期生の多くが2015年3月に化学生物系専攻前期博士課程を修了し、各方面的企業等でご活躍されています。

学科の近況報告ですが、2015年3月に無機工業化学分野の小窓勉先生が定年退職されました。28年にわたる本学での教育研究に貢献され、名誉教授の称号が授与されました。2015年4月から山田裕介先生を無機工業化学分野の教授として、北川大地先生を材料化学分野の特任助教としてお迎えいたしました。山田先生は固体触媒材料のご専門で、今後エネルギー関連化学の研究でご活躍されることを期待しています。大嶋教授は本学副学長（産学官連携・知的財産・大学改革・男女共同参画担当）および複合先端研究機構長、堀邊教授は新産業創生研究センター所長、長崎教授は教育研究評議員としてご活躍されています。今年度の学科教員および学生の受賞については、国際学会やシンポジウムでの優秀発表賞など多数立っており、活発に研究が行われていることが伺えます。工学研究科および全学のホームページに掲載されていますので、一度ご覧になっていただければと思います。

平成25年10月に採択された文科省博士課程教育リーディングプログラム（システム発想型物質科学リーダー養成学位プログラム）の履修生が2年目を迎えるました。産業界でのリーダーを目指した5年一貫博士課程教育プログラムですが、大阪府大と一体となりプログラムを進めています。企業での

トップクラスを経験して来られた方を特認教授として招き、教育指導いただいている。主専攻の講義や研究以外に、戦略的システム思考力演習、英語教育、研究室ローテーション、海外研修などを学修し、高度な研究推進能力をグローバルな産業牽引力に転化させ、国際的舞台でリーダーシップを発揮できるように教育するプログラムです。化学生物系専攻では、M1とM2が1名ずつの計2名が本プログラムで博士の学位の取得を目指しています。

今年度の就職状況ですが、経団連の採用選考に関する指針に基づいて就職活動の時期がずれ込み、学生・企業の方ともに苦労があったものと思いますが、ほぼ例年通り順調に進めています。卒業生の皆さんのが各方面でご活躍されていることが、採用状況に大きく影響しているものと思います。卒業生の皆さんには今後とも暖かいご支援を賜りますようお願い申し上げます。

最後に、残念なお知らせがあります。本学名誉教授の大津隆行先生が去る5月8日にご逝去されました。高分子化学の分野で日本をリードされた先生であります。ここに改めてご報告するとともにご冥福をお祈り申し上げます。

(工学研究科教授・化学バイオ工学科主任教授)

近況報告

水田 圭一郎



私は1994年に応用化学科前期博士課程を修了後、(株)日本触媒に入社しました。入社時は吹田の研究所に配属になり、アクリル樹脂の開発に従事しましたが、仕事が一区切りついた5年後、リチウムイオン電池の新規材料開発に携わることとなりました。弊社ではこの分野の仕事は

全く実績もなく、また私自身、知識もあまりありませんでしたが、人のやってないことをやるという入社時の志を思い出し、ゼロから研究開発をスタートさせました。現在は事業部に異動し、その際に開発した材料をお客様に紹介し、販売する仕事をしています。何もないところから新しいものを生み出していくプロセスは本当に大変なことの連続でしたが、我慢強く、一つ一つ積み上げていくこと、多くの人に協力を得るためにどのように説明し、納得してもらうなど、大学の研究室時代に学んだことが本当に役に立っていると感じています。

これからも、「企業の研究は世の中で使われて始めて意味のある研究となる」という恩師の言葉を肝に銘じ、頑張って行きたいと思います。

また、一昨年、研究室の卒業生の有志忘年会に参加させて頂きました。約20年ぶりに会う先輩や同級生との再会に、少し緊張をしましたが、それは全く杞憂に終わり、あの頃の大変だった、そして楽しかった思い出話に花が咲き、大いに盛り上りました。これからもこの素晴らしい縁を大切にしていきたいと思います。

最後になりましたが、大阪市大および皆様の益々のご活躍を祈念し、近況報告とさせて頂きます。

(応化・平成4年卒・同6年前期博士課程終了・(株)日本触媒)

近況報告

西 弘泰



私は2012年3月に化学生物系専攻後期博士課程を修了後、名古屋大学大学院工学研究科で約1年半ポストドクを経験し、現在は東京大学生産技術研究所の助教として教育、研究に携わっています。

当時の化学生物系専攻では、後期博士課程に進学する学生は少なく、旧応用化学科では私1人だけでした。同級生が修了し、卒業していく中、先の見えない状況で研究を続けていくことに不安もありましたが、今思うとそれは全くの杞憂でした。進学者の人数が少ないとということは、言いかえれば指導教員の指導を密に受けられるということであり、私は前期および後期博士課程で、研究やプレゼンテーションの基礎から、研究者としての心構えまで、様々なことを学ばせて頂きました。この経験は、分野や環境の異なる他大学の研究室でも大いに役立てることができ、おかげさまで現在も恵まれた環境で研究活動を続けることができております。

現在は学生時代とは異なり、自身の研究の傍ら、学生を指導する立場にあります。人にものを教えるということや、学生さんと協力して研究成果を出すことの難しさを痛感しつつも、やりがいを感じながら楽しく日々を過ごしております。

このような生活を送っているのも、学部および大学院で教鞭をとって下さった旧応用化学科および旧生物応用化学科の先生方のご指導の賜物と、深く感謝しております。私としましては、今後、後期博士課程に進学する学生さんが増え、化学生物系専攻を盛り上げていって下さることを期待するばかりです。

最後になりましたが、皆様のご健康と、今後益々のご活躍を祈念し、近況報告とさせていただきます。

(応化・平成19年卒・同21年前期博士課程修了・同24年後期博士課程修了・東京大学生産技術研究所)

近況報告

戸田 清華



私は2010年に生物化学工学系専攻前期博士課程を修了後、日本バルカーリ工業株式会社に入社し、奈良県の研究所でシール材の開発に携わっています。シールとは、流体の漏れを防ぐ、または異物の混入を防ぐもので、ポンプやバルブのように動く箇所に使用されるパッキンと、プラントの配管などの固定箇所に使用されるガスケットに大別されます。そんな、地味だけど、とても大事な部品の開発に携わっています。

卒業してから5年半の間、ずっと奈良にいるのですが、ゴムのパッキンの開発からはじまり、研究企画、活性単膜の評価測定、現在のガスケット開発と、対象を変えて、研究開発に携わり続けています。研究開発の対象が変わることで、覚えることが多かったり、考え方方が違ったりで苦しむこともあります。いろいろな経験をしたことで、新たに人脈や評価方法、考え方を得ることができるので、刺激が多く、とても充実しています。何度かの異動で、最初はネガティブな点ばかりが気になっていましたが、それを強みとして生かしていくようと思えるのは、在学中から現在に至るまで厳しく優しく指導してくださっている先生方のおかげです。

また、バルカーには市大工学部出身者が多く、特に今のチームでは10人中5人が市大工学部出身なので、仕事終わりによく在学中の話や先生方の話、大学周辺のお店の話で盛り上がります。世代を越えていろいろな話ができる、市大工学部という縁は大きいですね。おかげで?2012年には学科の新入生研修合宿にも参加させていただき、まだまだ市大工学部のつながりを深めていければと思います。

最後になりましたが、皆様の益々のご活躍を祈念し、近況報告とさせていただきます。

(応化・平成20年卒・同22年前期博士課程修了・日本バルカーリ工業株式会社)

建築学科（旧建築・旧環都一部）

建築学科の近況

宮本 佳明



卒業生の皆様にはますます健勝のこととお慶び申し上げます。

建築学科では2015年3月に30名が卒業し、4月には34名が入学しております。卒業生の進路は、就職9名、大学院進学20名で、建築系大学院学生は19名が就職しています。民間企業、役所共に採用数が増える中で近年の傾向となりつつあった学部卒での就職が昨年度は減少に転じ、修士課程への進学する学生が増加しました。一方で、卒業までに4年を超えるあるいは休学や中途退学する学生の問題は、いまだこれといった解決法が見出せずにいます。そのような状況の中で、昨年度3回生38名が全員揃って4回生に進学出来たことは大変喜ばしく、今後はこの傾向が定着するように鋭意努めて参りたいと考えております。

学科教員の異動などは特にございません。昨年度において特筆すべきこととして、学生の学外での受賞が相次いだことが挙げられます。以下にその一部を紹介します。芥龍之介くんが第3回国連防災世界会議仙台において「開催実行委員会会長賞 最優秀賞」を受賞。久保晶子さんが「デザイン女子No.1 決定戦 2015 NAGOYA」において建築部門1位（全体3位）を受賞。上田満盛くんが「キルコス国際設計コンペティション2014」において金賞を受賞しました。いずれも3回生です。

以上のように、概観しますと建築学科の学生の活動の幅が広がり厚みも増しつつあるように感じます。しかしながら一方で、基礎的な学力等において不安を感じる場面を多々経験することも確かです。卒業生の皆様にはますますのご支援とご鞭撻を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

（工学研究科教授・建築学科主任教授）

近況報告

西水 玲未



私は建築防災出身なので、現在は谷池先生、谷口先生にお教えいただきご縁があった関西設計株式会社で構造設計の仕事に携わらせていただいております。私をご存じの方にはあなたが構造？といつも相当驚かれます。本当に自分でも思いもしなかった事ですが、周りの方々のおかげで日々勉強をさせていただきつつ、今まで来られたのだと感謝を常々感じています。

私事で恐縮ですが、先日一級建築士の試験がありました。入社以来試験を目標に過ごしていたといつても過言ではないのですが、試験直前に体調を崩し一週間出社もままならなくなりました。目標を達成できないかもしれないという絶望感と、皆様に迷惑をかけているという焦燥感に駆られ、途方に暮れる私を市大出身の会社の先輩方が励ましてくださいました。「会社というのは支え合う場所、人の集まりで成り立っている」「ほちほちいこう、開き直りも大切」と。そして建築学科の友人、先輩からも激励を受け、素晴らしい人のいる場を母校を持った私はなんと幸せ者だろうか、と感動し涙しました。無事試験も受けられ、雨降って地固まる、ではないですが体調不良を機に心新たに活動的に人生を生きていこうとしている真っ最中です。何事にもやるなら楽しんで、が私のモットーですので、これからは真っ白な気持ちで仕事に精を出し社会に貢献していきたいと考えています。そして色々挑戦してみたいと思っています。

（建築・平成23年卒・同25年前期博士課程修了・関西設計㈱）

都市学科（旧都基・旧環都）

都市学科の近況

内田 敬



卒業生の皆様には、学外実習の受入や業界説明会でのご講演など、都市学科（並びに大学院・都市学講座）学生の成長に多面的なご支援をいただき誠にありがとうございます。

平成27年度卒業予定者の進路は、在学4年生50人のうち33人が本学大学院などの前期博士課程に進学予定であり、11人が企業・官公庁から内定をいただいている。修士2回生は6人が技術系公務員として、25人がゼネコン、建設コンサルタント、環境・設備系メーカーなどの企業への就職が内定しています。これら就職先は伝

統を引き継いだものですが、これから数年は学部卒学者に占める女子学生の比率が約3割と高い状況が続きます。ダイバーシティ社会へ向けて都市学科としても貢献していく所存です。

大学院後期博士課程は社会人学生が多くを占めていますが、本年10月には前期博士課程を早期修了（6ヶ月短縮）した一般学生1名が進学しました。

教員の異動は、平成27年3月に松村准教授が京都大学へ転出されました。活動面では、全学組織「都市防災教育研究センター」が平成27年3月に開設されました。同センターは2011年の東日本大震災後に実施した「都市防災研究プロジェクト」の成果を踏まえ、災害リスク評価、災害対応力向上、社会実装に関する研究と防災教育・防災リーダー育成を行っています。災害リスクユニットリーダーの重松教授ほか、11人の都市学科教員が兼任研究員となって教育・研究・地域貢献を進めています。

以上の様に、社会情勢も踏まえつつ堅実・着実な研究・人材育成を進めております。卒業生の皆様の変わらぬご支援、ご鞭撻よろしくお願ひいたします。

(工学研究科教授・都市学科主任教授)

近況報告（タクシー会社で頑張っています）

大西 史人

現在私は、自宅のある奈良県天理市を離れて三重県四日市市に住み、三重近鉄タクシー(株)で働いています。
私は近畿日本鉄道(株)に入社以来、主に鉄道施設建設等の仕事に携わってきました。タクシーとの出会いは8年前、石川近鉄タクシー(株)に出向してからです。鉄道利用者の減少に伴い鉄道投資予算が徐々に削減され、工事の仕事が減ってきたことから、いずれ土木の仕事を離れることになるだろうと予想していましたが、さすがに異動発令の時は吃驚しました。

タクシー業界は、年々利用者数が減少し、法人タクシー会社の約6割が赤字と厳しい状況です。当社の経営も芳しくなく、仕事量も多くて休みの時間がなかなか取れないことからストレスも溜まりますが、土木の仕事で培った問題解決力や工事をやり遂げた自信が今の私を支えています。

逆にタクシー会社に異動して良かったこともあります。生まれ育った土地を離れて石川県金沢市や三重県四日市市に住んで、いろいろな方と出会い、地域の食や文化に触れる楽しみは、旅行では味わえません。陽明学者の安岡正篤先生の言葉に、「縁尋機妙多逢聖因（良い機会、良い人、良い場所、良い書物と出会う努力を続ければ、良い結果に恵まれる）」がありますが、このご縁を大切にしたいと思っております。

また来年5月三重県で伊勢志摩サミットが開催されます。国家事業であるサミットの成功に貢献するため、社員一丸となって仕事に励み、その結果、「頑張って良かったな」と、皆で笑えるようにしたいと考えています。最後に皆さん、三重県にいらっしゃることがありましたら、三重近鉄タクシーのご利用をよろしくお願ひいたします。

(土木・昭和60年卒・三重近鉄タクシー(株))

近況報告

山中 真也

平成17年に大学を卒業し、2年間勉強を続けようと大学院に進学しました。当時の名前は「吉田真也」でした。大学院修了後、鹿島建設に就職し、現在まで7件の現場で働いてきました。入社4年目に母方に実家に養子として入り、姓を山中に改め、その後結婚し、現在に至ります。妻も市大の卒業生で、応用化学学科出身です。妻と出会わせてくれた大学にはとても感謝しています。職業柄、単身赴任となることが多く、家族には非常に迷惑をかけていますが、それでも家族仲良く暮らしています。

入社して3年間は開削現場や、造成現場に配属され、経験を積みました。その後、OJTの一環として設計業務に1年間従事し、5年目以降はトンネル現場や橋梁現場に配属されました。入社してから8年間、主に現場にて施工管理に従事し、学んだことを生かしたり、また新たな経験をしたりしています。そして現在は東北の福島の方で除染の現場で施工管理を行っています。除染は放射線を出す放射性物質を取り除く作業であり、農地をすき取ったり、家屋を拭き取ったり、道路を水で洗浄したり、森林の堆積物を除去したりする作業がメインです。つまり、土を動かす、構造物を構築するといったことは全くしていません。ものづくりを志し入社したはずだと、気に病むこともありましたが、誰かがやらなければ復興は成し得ません。この除染の作業は福島再生の中で最初に行わなければならない事項であり、このような経験ができる事を今では誇りに思います。復興の最先端で仕事をできる喜びを胸に日々精進していこうと思っています。

最後になりましたが、ご無沙汰している方々にお会いできた際、近況報告等させていただければ幸いです。

(土木・平成17年卒・同19年前期博士課程修了・鹿島建設(株))

近況報告

早水 基頼

卒業生の皆様こんにちは。2008年度前期博士課程修了の早水と申します。2012年度からバーレーンに駐在し、今年で4年目を迎えることとなりました。拠点はバーレーンですが、現在はオマーンのサラーラで試運転業務に従事しています。

駐在地での主な業務は、外国人スタッフのマネジメント、プレゼン、設計、調達、試運転、性能試験、アフターサービスなど多岐にわたっております。設計業務では学生時代に専攻しなかった機械・化学工学をはじめ幅広い分野の知識が求められ、学生時代以上に勉強の日々が続いております。また、中東地域の労働者の多くは、出稼ぎ労働者で英語が主なコミュニケーションツールですが、文化の違いからくる誤解が生じることもしばしばあります。

中東地域は、皆様にとって遠い世界に感じられるかも知れませんが、石油の輸入を始め、経済・国際交流など日本と深く関係しています。また、昨今のニュースに見られるように危険な地域もありますが、情勢が安定している地域もあります。気候はサウジアラビアやバーレーン、アラブ首長国連邦などの地域では夏季の気温が50℃を超えることもありますが、ここサラーラは、中東の中でも避暑地に挙げられるほど有名で6～8月のシーズンにはモンスーンの影響で気温も30℃を下り、世界中から観光客が訪れる地域もあります。

中東と比べ、日本は食事・治安・教育等とても恵まれた環境であることを日々実感しています。文化や言葉の違いから苦労することはたくさんありますが、それらを肌で感じられることは、大変貴重な経験だと思っております。

日本に帰国した際はOB会など参加したいと思っておりますので、その時はどうぞよろしくお願い致します。

(環都・平成19年卒・同21年前期博士課程修了・(株)ササクラ)

平成26年度「学生工場見学会」

工学部・同窓会共催の「学生工場見学会」は、工学部同窓会創設50周年記念事業の一環として平成22年度から始まり、毎年、後期試験終了直後のタイミングで2月半ばに開催されています。この「学生工場見学会」は、平成23年2月には日立造船（株）と三井化学（株）を、平成24年2月には（株）ダイヘン六甲事業所（産業ロボット製造工場）を、平成25年2月にはヤンマー（株）尼崎工場（船舶用大型ディーゼルエンジン製造工場）を、平成26年2月には大阪ガス（株）泉北製造所（都市ガス製造所、天然ガス発電所、ガス科学館）を見学先として実施されており、5回目となる平成27年2月には、塩野義製薬（株）摂津工場を見学先として、以下の要領で実施されました。

- 12:30 工学部階段教室前集合
13:00 貸し切りバスにて出発
14:00 塩野義製薬株式会社 摂津工場着
　・大阪市立大学工学部あいさつ
　・講演：塩野義製薬株式会社生産本部
　　エンジニアリング技術部
　　設備設計部門 井原雅文氏（S62機械工学科卒）
　　[内容：会社概要、製薬会社での業務、社会に出ようとする後輩へ一言、ほか]
　・見学：経口剤の製剤・包装の製造工程
　・質疑応答
　・工学部同窓会あいさつ
17:00頃 千里丘駅前に移動後、懇親会

見学会参加者：工学部学生・大学院生35名、工学部教員2名、同窓会理事3名 合計40名
懇親会参加者：工学部学生・大学院生24名、工学部教員2名、同窓会理事3名、塩野義製薬（株）より4名 合計33名



講演風景

「学生工場見学会」は、工学部出身者が所属する企業の見学と、先輩との交流を通じて、エンジニアとして社会に出ようとする学生諸君にさらに見聞を広めていただくこと、がコンセプトになっており、平成26年度も、先輩からの説明を受けながらの製剤・包装工程の見学を行い、講演では、先輩からの専門的な話、業務の話に加え、後輩に対するアドバイス盛りだくさんの話を聞くことができました。見学、講演のスケジュールのすべての場面で、同じ工学部の先輩と後輩という意識が作用し、先輩の話にも熱が入り、それを聴く後輩の興味も倍増します。そして、今回の懇親会では、学生諸君、見学先企業の先輩、工学部教員、そして同窓会理事の合計33名もが集い、「大阪市立大学工学部」を核とした賑やかな交流の輪が広まりました。先輩がいる会社を見る、先輩の話を聴く、懇親会で先輩と交流する、の3つがセットとなったこの「学生工場見学会」は、学生諸君にとって有意義であるばかりでなく、大学・学生と同窓会をつなぐ意味においても、大変意義深く、今後も継続が望れます。同窓生の皆様には、是非、後輩たちにご自分の会社を見せてやっていただければと存じます。

なお、6回目となる平成27年度は、「工場」ではありませんが、大阪市消防局（指令情報センター・西消防署）を見学先とし、ハイテクを駆使しつつ、泥臭く災害に立ち向かう市大卒業生にフォーカスした見学会とさせていただく予定です。

吉田 稔（機械・S52卒・副会長）



塩野義製薬（株）摂津工場にて



見学会後の懇親会

★★★ 経常的活動のためのご寄付のお礼とお願ひ ★★★

日頃は、当同窓会の活動にご協力・ご支援いただき有難うございます。お蔭様で、2010年（平成22年）11月には当会の設立50周年記念を祝うことができましたが、この間の諸活動は会員の皆様のご入学時にお納め頂いた終身会費を主要財源として継続できました。

しかし、2005年の大阪市立大学学友会設立以降は、それまでの各学部同窓会独自の会費徴収が学友会自身の活動費とともに、ご入学時に一括徴収して各学部同窓会に配分される方式に変わり、それ以降当会への会費配分額は年々減少し、2011年度には学友会発足以前の2/3にも満たなくなり、事務経費などの可能な削減を進めつつありますが、まだ年収支をバランスさせ得ず、年々預金を取崩す状況になりました。

そこで、会員各位に隨時ご寄付をお願いするため、2011年12月に下記の「ゆうちょ銀行振替口座」を開設させていただきました。

何かとご出費もおありとは存じますが、同封の振込用紙にて引き続きよろしくお願ひ申し上げます。

なお、開設以後現在までに、延べ224名の方から170万円超のご釘金を賜りました。有難うございました。

「ゆうちょ銀行振替口座」 口座記号番号：00970-0-255218
加入者名：大阪市立大学工学部同窓会

工学部新任・若手教授による講演会 ～私の研究が目指すもの～

大阪市立大学大学祭（「銀杏祭」）のホームカミングデー特別企画として、工学部と工学部同窓会で共同開催する標記講演会が11月3日（火・祝）14：30～16：20に工学部G棟1階中講義室で開催された。工学部卒業生の参加は45人。

講演会は吉田稔行事担当副会長（機械・昭和52年卒）の司会のもとで進行した。

講演に先立ち、工学研究科長・工学部長の日野泰雄先生から、同窓会奨学金や在学生向け工場見学会など、同窓会の工学部への援助に対する謝辞と、講演会や意見交換会を継続実施していくとの希望が述べられた。

同窓会側からは、山田文一郎前副会長（応化・昭和40年修）から、実用と基礎のバランスの取れた研究に対する期待が述べられた。

一つ目の講演は、機械物理系専攻教授で制御工学・ロボット工学がご専門の高田洋吾先生から「市大発ロボットが社会で実用化される未来を夢見て」。

開発途上の2種類のロボットについて話された。一つは、水中生物調査や災害救助などを目的にした小型魚ロボット。全長100～200mmの尾ひれ推進型ロボット。速度は魚の1/2～1/3であるが、5時間以上連続遊泳可能。赤色移動マーカーに対して追跡可能。水底の模様を内蔵カメラで観察することにより自己位置の検知もできる。もう一つのロボットは橋梁の亀裂、腐食、塗装剥がれなど劣化箇所の探索ロボット。手のひ

らサイズで、遠隔操縦可能、垂直壁走行や天井走行が鋼製およびコンクリート製の橋梁に対し可能であることがビデオ映像などで紹介された。

二つ目の講演は、都市系専攻教授で橋梁工学・構造工学がご専門の山口隆司先生から「長持ちする橋梁を目指して」。

高度経済成長期に橋梁が多数建設され、20年後には全管理橋数の約65%が建設後50年を超える。実質的な点検が必要な15m以上の橋は大阪府には850橋あり、そのうち建設後50年以上のものは2015年では10%であるが、20年後には60%に達する。一方、土木分野の就労人口、特に若年層は年々減少しており、橋の管理を担う大阪府の公務員もしかしり。さらに、ここ数年新しい橋は作られておらず、橋梁設計の経験がない技術者が橋の老朽化の管理に携わることになる、などの問題点が指摘された。講演の後半では、劣化した橋梁を合理的に維持管理するシステムの構築を目的とした、ニューラルネットワークにより橋梁の損傷を同定する研究や、橋梁に発生したき裂の構造的原因を特定する計算プログラムの開発などが紹介された。

最後に、西口克彦会長（応化・昭和48年博修）から、橋梁の巨大自然災害に対するリスクマネジメントの必要性や、福島第一原発の内部点検用ロボットへの期待に言及した挨拶がなされ、講演会は閉会した。

東 恒雄（機械・昭和41年卒・理事）

ご存知ですか？

大阪市立大学では、各分野で活躍している卒業生や教員等の専門家が講師となり、一般市民を対象にした専門家講座を毎年1月～3月に開講しています。分野は法律、会計、証券、技術、文化・歴史、理学、スポーツなど多岐にわたっています。会場は大阪駅前第2ビル6階にある大阪市立大学文化交流センターです。興味がお有りの方は、インターネットで 大阪市立大学オープンレクチャーズで検索してみてください。

事務局年報（2014.12～2015.12）

2014年（平成26年）

12月：会報30号の発送完了（25日）。

2015年（平成27年）

1月：高桑・志野両監事の会計監査（21日）。

第21期第8回理事会で評議員会の議案等について検討した。（28日）。

推薦入試合格者2名に奨学金貸与（20日）。

2月：大阪梅田の「大阪弥生会館」にて午後5時30分から午後6時20分まで第26回評議員会を開催、第21期2年目（2014年度）の経過と収支決算報告及び会計監査報告、第22期1年目（2015年度）の理事の改選・事業計画・予算を承認。その後の「同窓懇親パーティ2015」では、大嶋寛大阪市立大学副学長から「大阪市立大学の現状」についてのお話を拝聴の後、懇親会を催し、恩師1名を含む53名の同窓が絆を深めあった（13日）。

工学部学生「工場見学会」で塩野義製薬㈱摂津工場へ学生40名の参加があった（20日）。

3月：平成27年度新入生への当会会則・入会案内・会報の配布を工学部事務室に依頼（1日）。卒業・修了生宛送別文書と会費納入要請書の配布を各学科主任・理事等に依頼（13日）。工学部大講義室で「工学部・工学研究科送別式（学部卒業：260名、前博修了：175名、後博修了：4名）」に西口会長及び理事有志が出席（24日）。

4月：2015年度入学式（学部入学：293名、前博入学：194名、後博入学：3名）が大阪市中央体育館にて挙行される。（6日）。新入生への工学部同窓会入会受付（8日）。第22期第1回理事会で今期の理事会の運営等について検討した。（15日）。2回生1名、3回生1名4回生1名に奨学金貸与（16日）。

5月：第121回市大ボート祭に協賛アドバルーンを掲揚（23、24日）。

6月：第14回ホームカミングデー第1回実行委員会で今年度の取組を検討（23日）。

7月：第22期第2回理事会でホームカミングデーの実施行事等について検討した。（15日）。

8月：工学学術情報交流センターの夏季休館（10～14日）。

9月：広報委員会の開催（28日）。第22期第3回理事会で同窓会報31号の発行等について検討した。（30日）。

10月：第14回ホームカミングデー案内状を理事・評議員・記念募金拠出者を中心に送付（14日）。会長・名誉会長・学科主任・卒業生に会報31号原稿の依頼状を発送（14日）。

11月：第14回ホームカミングデーの一環として、G棟中講義室で工学部新任・若手教授による講演会の実施。45名の参加者があった。（3日）。

工学部同窓会奨学金奨学生募集開始（9～13日）8名の応募があった。

会報31号の初稿を開始（20日）。

12月：奨学金貸与者決定審査委員会開催（7日）。第22期第4回理事会で評議員会等の議案等について検討（16日）。

（1）第21期第2年度（2014年1月～12月）収支決算書

（イ）経常費収支決算表（円）

収 入		支 出		
終 身 会 費	5,640,000	会 議 費	158,144	
貯 金 利 息	1,305	行 事 費	95,525	
経 常 寄 付	578,000	交 流・懇親行事費	130,438	
特別基金(Ⅰ)から振替	1,505,990	会 员 名 簿 費	3,100,965	
前期より繰越金	2,704,687	協 賛 費	183,600	
		涉 外 局 費	372,367	
		事 通 信 費	1,382	
		事 務 費	2,400,860	
		備 品 費	90,209	
		会 費 徴 収 費	253,227	
		次 期 へ の 繰 越 金	284,914	
合 計	10,429,982	合 計	39,620	
			3,318,731	
			合 計	10,429,982

（ロ）貸借対照表（2014年12月末、円）

借 方		貸 方	
振 替 口 座	771,774	2013年度 累計剩余金	2,704,687
普 通 預 金	3,725,420	2014年度 剩余金	614,044
定 期 預 金	35,517,483	特 別 基 金	36,695,946
合 計	40,014,677	合 計	40,014,677

（2）第22期第1年度（2015年度 1月～12月）理事会役員

会長：西口 克彦（化43）

副会長：斎藤 壽士（物44）、黒山 泰弘（土50）、森田 至彦（電51）、吉田 稔（機52）、谷口 徹郎（建59）

会計：東 恒雄（機41）

理 事：人見 宗男（機31）、宮本 万功（機43）、笠上 文男（機50）、瀧山 武（機59）、栗政 幸一（電31）、建部 渉（電35）、行藤 三男（電36）、南 繁行（電45）、木村 雅之（電51）、前谷 治男（電51）、村治 雅文（電62）、近藤 紘一（化37）、山田文一郎（化修40）、三浦 洋三（化42）、神門 登（化45）、大嶋 寛（化49）、貴志 義昭（建41）、坂 壽二（42）、金次 末廣（建44）、中川 長継（建48）、伊勢 博幸（建54）、湊勝 比古（土41）、小林 俊明（土44）、辻江 賢治（土48）、日野 泰雄（土50）、大島 昭彦（土55）、田守 芳勝（物38）、柳川 重昌（物44）、山本 孝（物45）、大前 秀治（物56）

監 事：高桑 久茂（電46）、志野 太一（物40）

（3）第22期第1年度（2015年1月～12月）事業計画

①会報第31号の12月上旬発行・配布。

②工学部・全市大行事及び事業への協力。

③会員相互の親睦交流の促進。

④特別基金の運用と有効活用。

⑤工学部同窓会奨学金基金の運用。

⑥準会員（在学生）の工場見学の実施。

⑦経常費収支差の改善。

（4）第22期第1年度経常費予算（円）

収 入		支 出		
終 身 会 費	4,530,000	会 議 費	160,000	
貯 金 利 息	1,000	行 事 費	100,000	
経 常 寄 付	320,000	交 流・懇親行事費	120,000	
前 期 繰 越	3,318,731	会 员 名 簿 費	1,550,000	
		協 賛 費	280,000	
		涉 外 局 費	300,000	
		事 通 信 費	20,000	
		事 務 費	2,300,000	
		備 品 費	80,000	
		会 費 徴 収 費	120,000	
		次 期 へ の 繰 越 金	100,000	
合 計	8,168,731	合 計	100,000	
			2,938,731	
			合 計	8,168,731

工学研究科・工学部の研究分野一覧

専攻名	学科名	分野名	教員名	専攻名	学科名	分野名	教員名	専攻名	学科名	分野名	教員名
機械物理系	機械工学科	環境熱工学	西村 伸也	電気情報工学科	電子情報系	光電子工学	向井 孝彰 宮崎 大介	建築学科	都市系	建築構造	谷口 与史也 吉中 進
		熱プロセス工学	伊與田 浩志			電磁デバイス工学	辻本 浩章			建築防災	谷池 義人 谷口 徹郎
		流体工学	加藤 健司 脇本 辰郎			スマートエネルギー	仕幸 栄治			建築材料	木内 龍彦
		機械力学	川合 忠雄 今津 篤志			情報システム工学	高橋 秀也 吉本 佳世			建築環境	梅宮 典子 小林 知広
		生態計測工学	佐伯 壮一			情報処理工学	鳥生 隆 中島 重義			建築デザイン	宮本 佳明
		材料数理工学	山崎 友裕 大島 信生			知識情報処理工学	田窪 明仁 上野 敏志			建築史	倉方 俊輔
		ロボット工学	高田 洋吾			情報ネットワーク工学	岡 育生			建築計画	横山 俊祐 徳尾野 徹
		動力システム工学	瀧山 武			情報通信工学	原 晋介 杉山 久佳 辻岡 哲夫			建築構法	藤本 益美
		生産加工工学	佐藤 嘉洋 川上 洋司			マルチメディア工学	阿多 信吾			コミュニティデザイン	嘉名 光市 吉田 長裕
		材料物性工学	横川 善之 岸田 逸平			光物性工学	中山 正昭			複合構造	鬼頭 宏明
		材料知能工学	逢坂 勝彦 中谷 隼人			フォトニック工学	竹内 日出男			コンクリート構造	角掛 久雄
		材料機能工学	兼子 佳久 内田 真			波動物理工学	菜嶋 茂喜			橋梁工学・鋼構造	山口 隆司
	工学部	応用数学	多羅間 茂雄 瀧澤 重志			ナノマテリアル工学	金 大貴			地盤環境工学	大島 昭彦
		機械工作室	吉岡 真弥			数理工学	寺井 章 杉田 歩			地盤防災工学	山田 卓
化学生物系	化学生物工学科	無期工業化学	山田 裕介 有吉 欽吾			物性制御工学	中山 弘 福田 常男			河海工学	重松 孝昌
		工業物理化学	辻 幸一 米谷 紀嗣			応用分光計測学	小林 中			熱環境	西岡 真稔
		有機工業化学	畠中 康夫 南 達哉			検出器物理工学	武智 誠次			熱エネルギー設備	鍋島 美奈子
		高分子化学	堀邊 英夫 佐藤 絵理子 西山 聖			パワーエレクトロニクス	重川 直輝 梁 劍波			水圈生態工学	矢持 進
		材料化学	小畠 誠也 北川 大地			材料計測工学	白藤 立 村治 雅文 田中 健司			水圈環境工学	遠藤 徹
		生体機能工学	長崎 健 東 秀紀			テニュアトラック連携教員	蔡 凱			水処理工学	貫上 佳則
		生物分子工学	北村 昌也 中西 猛							廃棄物リサイクル	水谷 聰
		生物化学工学	大嶋 寛 五十嵐 幸一							都市基盤計画	日野 泰雄
		生体材料工学	田辺 利住 立花 亮							都市計画	※嘉名 光市 佐久間 康富
		細胞工学	東 雅之 立花 太郎							交通計画	内田 敬
										交通環境	※吉田 長裕
										※建築学科兼担	
										テニュアトラック連携教員	遠藤 智司

編集後記

同窓会便り第31号をお届けします。

平成27年5月に大阪市の「特別区設置住民投票」、11月に「大阪ダブル選挙」が終了し、政治的には一段落した感がありますが、具体的な行政課題への対応について、案はいろいろあるもののまだ何も決まっていない状況です。私たちの母校大阪市立大学においても、周知のように大阪府立大学との統合に向けて具体的な検討が進められていますが、どのように進展していくか、注視していく必要があると感じます。

さて、工学部同窓会においては、西口新会長のもと、理事会に先立って会長・副会長会を開催し、理事会での議事内容の精査はもとより、会の運営方針や事業内容を議論しているところです。具体的には、財務体制の強化、ホームページの更新、会報編集方針の見直しなどですが、難しい課題もあり、もう少し時間をいただきたいと思います。なお、検討結果は今後理事会での議論を踏まえて会員各位にお伝えしていく予定です。

今後とも、同窓会の運営について、会員各位のご支援・ご協力を願いいたします。

(黒山 泰弘)

編集委員 (○印: 委員長)

○森田 至彦 (電気: 昭和51年卒)

前谷 治男 (電気: 昭和51年卒)

山田文一郎 (応化: 昭和40年修)

黒山 泰弘 (土木: 昭和50年卒)

人見 宗男 (機械: 昭和31年卒)

村治 雅文 (電気: 昭和62年卒)

大嶋 寛 (応化: 昭和49年卒)

大島 昭彦 (土木: 昭和55年卒)

瀧山 武 (機械: 昭和59年卒)

近藤 紘一 (応化: 昭和37年卒)

伊勢 博幸 (建築: 昭和54年卒)

“工学部同窓会の集い” —第11回キャンパス交流会—

来春の“工学部同窓会の集い”は第11回キャンパス交流会として、下記の通り開催します。

講演会では、次のお二人にお願いいたしました。

また、懇親会は旧教養地区北食堂で開催し、現・旧の恩師の方々にもご臨席頂くようにお願いする予定です。同期生や職域での同窓生をお誘い合わせの上、ご出席下さい。ミニ・クラス会や、ミニ・職域同窓会を兼ねてのご参加も大歓迎で、年々増えております。

記

★日 時：2016年2月13日（土曜日）午後2時30分～午後6時00分

★講演会：時間▶午後2時30分～午後4時20分

会場▶大阪市立大学学術情報総合センター（1階）文化交流室

1) “サーマルグリッド技術の開発と実証”

大阪市立大学複合先端研究機構 特命教授 中尾 正喜 氏

2) “大阪市立大学の近況について”

大阪市立大学大学院工学研究科 教授 副学長 大嶋 寛 氏

★懇親会：時間▶午後4時30分～午後6時00分

会場▶旧教養北食堂

会費▶3,000円（当日、会場にて徴収）

【申込方法】

1) 連絡事項: ①ご氏名、②学科(専攻)名、③ご卒業(修了)年、
④住所(連絡先)、⑤講演会の出欠、⑥懇親会の出欠

2) 方 法: ハガキ、FAXまたはe-mail

3) 期 日: 2016年2月5日(金曜日)

【申込先】

大阪市立大学工学部同窓会 事務局
〒558-8585 大阪市住吉区杉本3-3-138
FAX: 06-6605-2769
e-mail: dousoukai@eng.osaka-cu.ac.jp



理系学舎前・昼



理系学舎前・夜